

平成 21 年 1 月 12 日

総務省総合通信基盤局
電波部電波政策課 御中

郵便番号 105-7317
住所 (ふりがな) とうきょうとみなとくひがしんぼし
東京都港区東新橋一丁目9番1号
氏名 (ふりがな) ソフトバンクモバイル株式会社
だいひょうとりしまりやくしゃちょうけんしーいーおー そん まさよし
代表取締役社長兼CEO 孫 正義

郵便番号 105-7316
住所 (ふりがな) とうきょうとみなとくひがしんぼし
東京都港区東新橋一丁目9番1号
氏名 (ふりがな) ソフトバンクテレコム株式会社
だいひょうとりしまりやくしゃちょう しーいーおー そん まさよし
代表取締役社長兼CEO 孫 正義

郵便番号 105-7304
住所 (ふりがな) とうきょうとみなとくひがしんぼし
東京都港区東新橋一丁目9番1号
氏名 (ふりがな) ソフトバンクBB株式会社
だいひょうとりしまりやくしゃちょうけんしーいーおー そん まさよし
代表取締役社長兼CEO 孫 正義

当該提案募集に関しまして、今回このような提案募集の機会を設けていただいたことに、厚く御礼申し上げます。

「ホワイトスペースの活用方策など新たな電波の利用方策に関する提案」に関し、別紙のとおり要望事項及び提案を提出します。

尚、問い合わせ等は、下記連絡先で対応致しますので、宜しくお願い致します。

ホワイトスペース検討にあたっての要望事項

1. ホワイトスペースの利用は地上テレビジョン放送帯域を更に縮小した後に利用開始することを要望

62CH 以下の地上テレビジョン放送帯域は、2012 年までに 52CH 以下に縮小し、そのまま放送事業者が利用する予定ですが、同様に、地上テレビジョン受像機、ブースターなどのフィルタ等を改変することなく、更に地上テレビジョン放送帯域を縮小し、放送事業以外の低 EIRP システムで利用出来るようにするべきである。拙速にホワイトスペースとして放送帯域を利用することは、貴重な周波数資源の活用を阻害する要因となるため、ホワイトスペースは現状の地上テレビジョン放送帯域の縮小、及び、将来的な周波数の利用方法も検討してから利用開始することを要望します。

62CH 以下の地上テレビジョン放送帯域は将来において周波数が有効利用できるように、長期的視野により再編を行うことが重要であり、周波数の再編は期限を決めて一度に実施するべきであると考えます。

先ず、2011 年のアナログ放送の停波後は、アナログ放送に比べて干渉に強いデジタル放送のみの利用になります。現在、アナログ放送とデジタル放送が同じ周波数帯域でサイマル利用している状態ですが、アナログ放送停波後はアナログ放送の周波数は空き周波数となること、及び、アナログ放送は干渉問題で隣接チャンネルを利用出来ないという制限がありました。技術等の進歩によりデジタル放送にはその制約がなくなることにより、更なる放送帯域の縮小の可能性があると考えます。

次に、再編において、同様なシステム毎に一定の帯域幅をもって割当てすることは、他システムとの干渉ガードバンドを最小限に留めることが可能になり、周波数有効利用ができるので、基本的に、ホワイトスペースに別システムを混ぜ込むべきではなく、別システムは、この周波数縮小により確保した新たな周波数帯でやるべきであると考えます。


従いまして、ホワイトスペースの導入前に放送帯域の周波数を更に 42CH 以下程度まで縮小し、新たに利用できる帯域へ ITS の上り並びに、800MHz 帯低出力ラジオマイク等のシステムを移行することが出来れば、周波数の逼迫する他システムへの利用拡大にもつながり、周波数の有効利用が最大限図られると考えられます。

2. 800MHz 帯低出力ラジオマイク等は地上デジタル放送帯域への移行するべき

技術の進歩により、1.5GHz 帯携帯電話システムでは、携帯電話のシステムと中継用のエントランス回線を同じ周波数で地域を分けて共用している実績があります。同様に、800MHz 帯低出力ラジオマイク等は同じ放送目的利用である地上デジタル放送帯域で共用し周波数有効利用を検討するべきであると考えます。

以上

平成 22 年 1 月 12 日

組織名及び 代表者氏名	ソフトバンクモバイル株式会社 代表取締役社長兼 CEO 孫 正義
組織名及び 代表者氏名	ソフトバンクテレコム株式会社 代表取締役社長兼 CEO 孫 正義
組織名及び 代表者氏名	ソフトバンク BB 株式会社 代表取締役社長兼 CEO 孫 正義
住所	東京都港区東新橋一丁目 9 番 1 号
連絡先	

1. 提案内容	移動体等の通信システムでの利用	
	タイトル (1)	携帯電話用フェムトセルシステムの導入
	【提案概要】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホワイトスペースを、携帯電話用 (FDD/TDD) フェムトセル基地局並びにそれに対応させた携帯電話端末で使用したいと考えます。 ・ ホワイトスペース検討に当たっては、別紙1 要望事項第1項における地上テレビジョン放送帯域を縮小した場合には、その帯域を使用したいと考えます。具体的には、フェムトセル基地局の送信・受信バンドを取りたいと考えます。 	
	タイトル (2)	IEEE 系のシステム
	【提案概要】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米国のテレビバンドでの使用を検討されている、ホワイトスペースに対応した IEEE 系のモバイル・ワイヤレス・ブロードバンドシステム (802. 22、802. 11(TV WS)) を使って、モバイル・ワイヤレスブロードバンドの提供のために活用したいと考えます。 	
	【利用する電波の諸元】	
	周波数	詳細については検討中
	占有周波数帯幅	詳細については検討中
空中線電力	詳細については検討中	
使用エリア	詳細については検討中	
その他、電波の諸元の詳細については検討中		
2. 提案内容の実現による効果	詳細については検討中	

<p>3. 提案内容の実現に向けて検討すべき課題とそのための方策</p>	<p>【周波数共用技術の開発や混信等に対する措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 干渉問題の検討について <p>干渉の影響は、広いエリアにおいて多くのユーザを収容する場合に大きな問題となります。また、他システムとの共用は干渉対策のためのガードバンドが一律使用できないといった非効率な周波数利用となります。ホワイトスペースを利用する場合には、広いエリアをブロードバンドカバーするといった用途以外にも干渉の影響を受けたり与えたりすることの少ない用途を含めて利用できる包括的な周波数利用を検討すべきと考えます。具体的には、低出力屋内向けを主とした干渉リスクの少ない用途、及び、BWAを広いエリアで提供するための用途の2つに分けてホワイトスペースを活用すべきと考えます。干渉問題の検討項目としては下記が挙げられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ホワイトスペース活用システムから地上テレビジョン放送への干渉 ② 地上テレビジョン放送からホワイトスペース活用システムへの干渉 ③ ホワイトスペース活用システムの使用する周波数 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地上テレビジョン放送局の周波数利用状況による全国で地域毎に異なる複数の周波数割当の検討 ・ 干渉問題の解決のためのガードバンドの検討 ・ 詳細については、作業班等を設置し、関係者が協議する必要がある。
<p>4. その他</p>	<p>なし</p>

以上